



## 巨大なる、精密。

ドイツ北部、日本とはほぼ同じ国土面積のこの国が、かつて日本同様の食料自給率の低下に悩みながらも、今や世界第3位の農作物輸出量の農業先進国となったことに異変がない訳は、深い。肥沃たる地帯の彼方に広がる、大牧草地。そこに驚くほど正確に、牧草の質「ペール」を振り出ししているのは、クボタ最大のトラクターM7の勇壮な姿である。まるで熊の総理のようなその光景こそがしかし、ドイツ農業再生の一翼を担っているのだと、気づくのは数少ない。

「農作物市場の急速なグローバル化の勢の中で、安値を武器とした諸国の農作物に対し、その価格に抵抗しながらもクオリティを落とすことなく、ドイツの、世界の、食卓の安全をも守ることはできないものなのか」

クボタは、そんな「高い壁」に、真っ向挑戦しています。

GPS自動操舵を始め、多彩な機能をシリアルに操作できる「スマート性」、トラクターとインプラメントを自在にコントロールできる「快適な操作性」、充実したメンテナンスや品質管理のサポートを行う「サービスの多様性」……やがて、クボタのM7シリーズは、参入が難しいといわれた「欧州農作」という巨大市場において、ついに本格参入を果たすこととなったのです。

起伏に富んだ牧草地を照らす、夜なお沈まない北部欧州の朝の光。日本とはまるで違う自然が広がるその地に、巨額に似合わせる精密さで、クボタのM7が、後部のインプラメントを器用に操りながら、ペールを作り続けています。精密であることが、豊かで安定した農作物を育み、未来の食料問題を解決する術であることを、その巨大な体だけが知っているかのように。

壁がある。  
だから、行く。